

オリジナル紙芝居

【藤子不二雄のお話】

M・Iさん



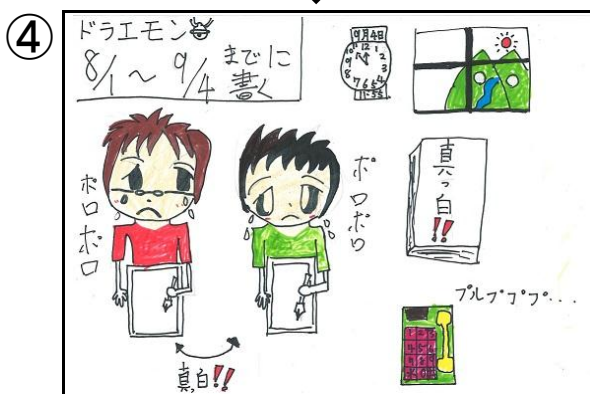
藤子不二雄のお話



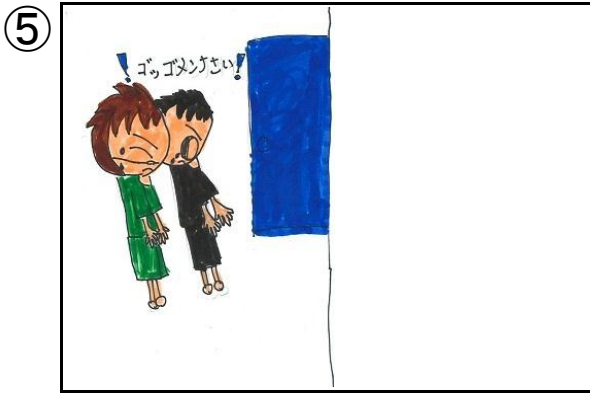
藤子不二雄は、マンガ家です。
2人は、マンガをかくのをものすごくがんばった。
たとえば、1人がねそうになったときに、ペン先
でうでをつついておこし合ったり、最後のページ
のときには、1人のふたんにならないように下と
上をぶたんしてあげたほどのなかよしだった。



二人は、休みをもらって里に帰った。
ところが、それが大きなしっばいだった。
家に帰ると気がゆるんでゆるんで、なまけてし
まった。



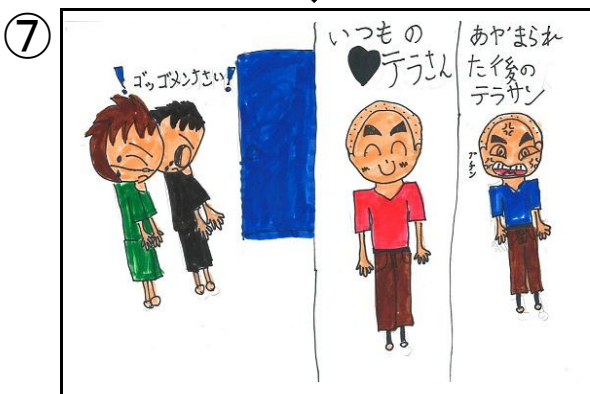
家でずーつとなまけていたので、仕事にまにあ
わなくなってしまった。
なまけた体は、なかなかおらなかった。
会社の人たちは、カンカンにおこって、
「こんなにだらけたマンガ家は、はじめて
だ!!」



2人は、同じマンションの先ぱいのテラさんにあやあまりにいった。



「ごめんなさい。ぼくたちは、もうマンガ家をあきらめます。」
すると、いつもやさしいテラさんが、



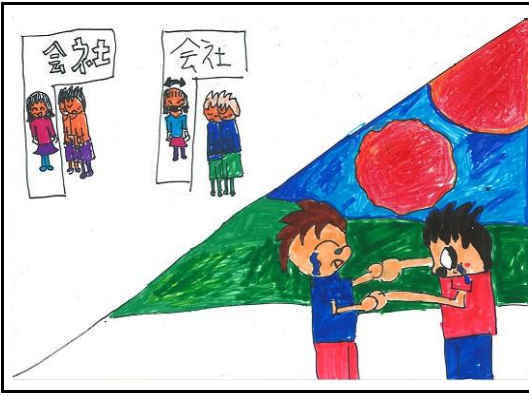
あやまられたとたん、ものすごくカンカンにおこっていました。



テラさんは、どなってこういった。
「バカ！！きみたちがマンガにかけたしょうねつは、こんなにアマッチョロイものだったのか！！
それなのにただ一回のしっばいでそんなにカンタンにあきらめてしまうのか！！」

2人は、よーくかんがえた。

9



2人は、すべての会社にあやまって回った。
ゆるしてくれる所もあれば、ゆるしてくれない所
もありました。

2人は、けっしんした。もう一度さいしょからやり
なおすと。

2人はちかい合った。

そして有名なマンガ家になった。

END

